

はつゆめ

小川未明

青空文庫

「^{しょう}正ちゃんはまだふといバットをふれなかったので、きよねんはおうえんだん
 ちようになりました。^{しょう}正ちゃんははやくせんしゆになリたかったのです。」

きようはことしのはつしあいでした。^{しょう}正ちゃんはほけつできていると、あいての西^{にしこう}校のせんしゆたちは、ほんとうによくうちました。いくらこちらが、がんばつても、なかなかおいつきません。このまますすめば二てんのさで、こちらのまけとなります。九かいのうら、やつと二^ツ一^{ダウ}死まんるいにこぎつけました。ここでヒットが一つでれば、どうてんとなるのです。

「だれをだそうか。」

と、東^{ひがしこう}校のせんしゆたちはそうだんをしました。

「^{しょう}正ちゃん、きみはあてると、いいたまをだすから、やってごらん。」
 といいました。

^{しょう}正ちゃんはこのときとおもいました。ふといバットをもってでました。みているものが、みんなあせをにぎりしました。

「^{しょう}正ちゃん、しつかりおやりなさい。」

と いったのは、とめ子さんです。

「正ちゃんしょうは、かおを まっかに して、力ちからいっぱい バットを ふりました。カンと音がおとすると、すごい あたりでした。」

「ヒット、ヒット。」

と、いう こえが おこりました。つづいて、

「ホームラン、ホームラン。」

と、いう こえが おこりました。たまは ぐんぐん のびて、はらっぱの くさむらの中なかに おちたのです。

「正ちゃんしょう、えらいなあ。」

東ひがし校こうは、ついに 一てん かちこして、西にし校こうを やぶりました。

「えらいね、正ちゃんしょう。」

と、とめ子さんこが よろこんで くれました。

「正ちゃんしょう、きみは こんどから、三るいしゅに なりたまえ。」

と、きまりました。みんなは きょうの しゅくんしや 正ちゃんしょうを いわって、手てをパチパチと たたきました。

「正ちゃん、たこをかいに いっしよに いかない。」

と、武ちゃんが いったので、町へ いっしよに いくと、初荷の車が やつて きま
した。こめだわらの 上に、だいこくさまを かざつて、青や 赤の ふうせんだまが
いくつも ついて いました。とおりに、車の 上に たつて いる 人が、

「ばんざい。」

と、手を あげました。

正ちゃんも 武ちゃんも、

「ばんざい。」

と いって、手を あげました。

ばんに、武ちゃんのおうちへ、かるたを とり に いく おやくそくを して わか
れました。

くると、とめ子さんが 目 に なみだを ためて いました。

「どう したんだい。」

と、正ちゃんは ききました。

「おはじき して、みんな とられて しまったの。」

と、とめ子^こさんが いいました。

「だれに とられたの。」

と、正^{しょう}ちゃんは ききました。

「しげ子^こさんや、あつちの しらない 子^こに。」

「どこに いる。」

「おみやの まえに あそんで いるよ。」

と、とめ子^こさんが いいました。

「ぼくが、かたきを うって あげる。」

「だめよ、正^{しょう}ちゃん、とても あつちの 子^こは つよいんだから。」

と、とめ子^こさんが いいました。

正^{しょう}ちゃんは、おうちへ かけて いって、じぶんの おはじきの ふくろを もって

きました。

おみやの まえへ いくと、お正^{しょうがつ}月なもので、みんな きれいな きものを きて いました。しげ子^こさんは、おしろいを ぬって、赤^{あか}い げたを はいて いました。あ つちの しらない 子^こは、白^{しろ}い 毛^けの えりまきを して いました。ほかにも 男^{おとこ}の

子^こや 女^{おんな}の 子^こが おおぜい いました。

「おはじき しょうか。」

と、正^{しょう}ちゃんが いうと、しげ子^こさんが、

「おほほ。」

と わらいました。

「ええ、しましうよ。」

と、しらない 女^{おんな}の 子^こが いいました。

「正^{しょう}ちゃん、とられても おこりっこ なしよ。」

と、しげ子^こさんが いいました。

「いいよ。」

「とめ子^こさんみたいに、ないて しまつては いやよ。」

「だれが、なくもんか。」

「おほほ。」

「なにが おかしいんだい。」

「おほほ。」

と、あつちの子も わらいました。

「^{しょう}正ちゃん、あまいぬ こまいぬの ^{いし}石の ^{うえ}上で、おはじきを しました。おばあさんに ぬつて もらった、おはじきの はいった ふくろを こまいぬの くびに かけて、
ふとい ^{ひと}人さしゆびを うごかしました。

「^{しょう}正ちゃん、小ゆびを おつかいなさい。」

と、とめ^こ子さんが いいました。

「^こぼく、小ゆびが つかえないのだよ。」

「おほほ。」

と、みんなが わらいました。

「いちじゆく、にんじん、ごぼうで、しいたけ、ほい。」

と、^{しょう}正ちゃんはいいなから、パチパチと あてました。

しげ^こ子さんや しらない 子は だんだん まけて、^{しょう}正ちゃんに みんな おはじきを
とられて しまいました。

「ああ、くやしい。」

「また あとで。」

しげ子さんと しらない 子は、あちらへ にげて いきました。

「とめ子さん、ぼく、かつたのを みんな あげるよ。」

とめ子さんは よろこびました。

「どうして 正ちゃんしょうは こんなに つよく なったの。」

と、とめ子さんが ききました。

「ぼく、こころの 中なかで、かみさまを おがんだのだ。」

「わたしも おがむわ。」

と、とめ子さんは 手てを あわせて おがみました。そうして、あまいぬ、こまいぬにも

あたまを さげました。

この とき、ドンコ、ドンコと あさの おみやの たいこの 音おとが して、正ちゃんしょう

は ゆめから さめたので あります。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 16」講談社

1978（昭和53）年2月10日第1刷発行

1982（昭和57）年9月10日第5刷発行

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：Juki

2012年7月16日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

はつゆめ

小川未明

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>